

# JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

2面

「香り」で  
県産フルーツをPR  
(岡山県本部)

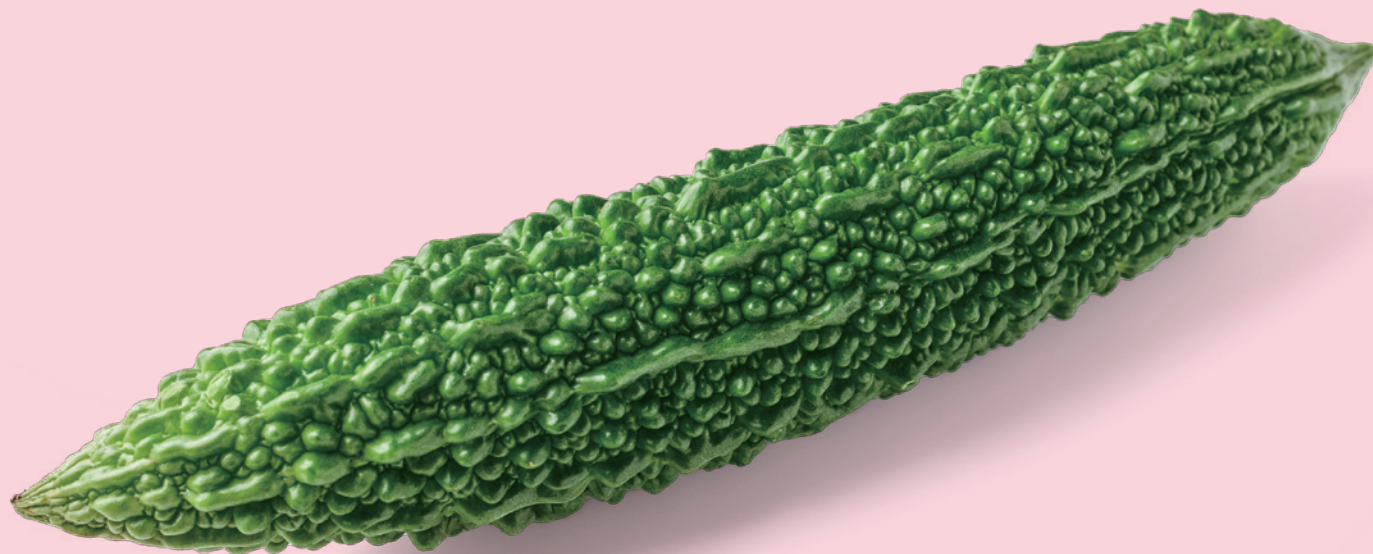
4面

地元マスメディアへ  
事業計画と取り組み説明  
(青森県本部)

Web版  
JA全農ウィークリーは  
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



配送先変更(住所・宛名)、  
配布部数変更はこちら



<https://forms.cloud.microsoft/r/uvWgU72VtZ>

## 麦類農産部

## 馬鈴しょでん粉の安定生産へ優良生産者を表彰 共励会表彰式で松浦英和さん（JAびほろ）に全農部長賞



全農麦類農産部長賞を贈呈される松浦さん(左)と西野博文麦類農産部次長

本共励会(事務局＝ホクレン農業協同組合連合会)は、でん粉原料用馬鈴しょの安定生産に向けて、優れた取り組みを行う生産者7組を表彰し、その成果を広く共有して技術の普及につなげることを目的に開催しています。

全農賞を受賞した松浦さんは、畑作4品による輪作を実践し、種芋の管理や土づくりに加え、土壌診断に基づいた施肥や適期作業など、日々の管理を大切にしてきました。その積み重ねが、地区JA平均

全農は6月4日、札幌市で開催された「第3回でん粉原料用馬鈴しょ栽培共励会表彰式」で、計画的な輪作体系構築と基本技術の徹底で高収量・高でん粉価を実現したJAびほろ(北海道)の松浦英和さんに、全農麦類農産部長賞を贈呈しました。



全国片栗粉組合の久保副理事長による講演

を上回る高い収量と優れた品質の確保につながっています。

表彰式では来賓として、でん粉実需者の一般社団法人全国片栗粉組合の久保晃副理事長が登壇し、「北海道産を愛し続けて販売している。生産技術の横展開による増産に期待したい」とあいさつを行い、生産者からは、品質と収量のさらなる向上を目指したいとの声が聞かれました。

全農は、共励会などを通じて馬鈴しょ生産者の営農を支援し、馬鈴しょでん粉の需給の安定に努めていきます。

## 岡山県本部

## 「香り」で県産フルーツをPR 特産ブドウのフレグランスで招待客を魅了



芳醇な香りをPRしたブース

「アレキ」は、美しいエメラルドグリーンの色合いと上品で芳醇な香りが特徴で、生産量は岡山県が日本一を誇り、全国生産量の約95%を占めます。本年、県内での栽培140周年という記念すべき節目を迎える、岡山県を代表するフルーツです。

香料は小川香料(株)、農林中央金庫岡山支店、岡山県本部が、3者連携協定を結び開発した化粧品用香料です。その香料を使用したフレグランス商品を、FERNANDA

岡山県本部は5月30日、東京都渋谷区で(株)ロフトが主催する「LOFT GREEN PROJECT」の展示会に参加し、岡山県産ブドウ「マスカット・オブ・アレキサンドリア」(以下、アレキ)の香料を使用したフレグランス商品を(株)FERNANDA JAPANのブースでPRしました。



ハンドクリームのサンプル

JAPANが2025年8月から販売しています。

展示会では、アレキをワインやジュースなどに加工する際に出る搾汁残さを、香料として有効活用するアップサイクルの取り組みを紹介。訪れた招待客に香料を使用したハンドクリームサンプルや、アレキ140周年限定の販促資材などを配布しPRしました。

岡山県本部は、このフレグランスをきっかけに、アレキを知ってもらい、今後も3者連携の取り組みを通じて、県産フルーツの認知度向上を図ります。

JAグループ  
物流会社連絡会

## 物流の法改正の課題や対応事例を共有

全国17社が効率化、価格転嫁などで意見交換



「法改正への対応」をテーマにした講演

今回の連絡会では、全日本トラック協会、全農が「法改正への対応」をテーマに講演を行いました。同協会からは、物流に関する法改正のこれまでの流れや「中小受託取引適正化法(取適法)」を中心とした改正事項における重要なポイントについて説明。全農は法改正を踏まえた対応状況について、具体例を交えて紹介し

JAGグループ物流会社連絡会(2023年度発足)は5月21日、第4回目の連絡会を愛媛県松山市で開催しました。物流会社が直面するさまざまな課題の共有・解決を目的に、全国17社のJAGグループ物流会社が参加しました。

ました。

参加社からは、荷主企業への理解醸成に対する課題意識や、物流効率化の必要コストを踏まえた価格転嫁などへの要望の声が挙がり、活発に意見を交わしました。

連絡会では今後もメンバー間の連携を深め、物流改善に向けた取り組みを推進し、参加各社およびJAGグループ全体の発展に貢献していきます。



参加各社からも活発な質疑や要望の声が挙がりました

## 「らくのう乳業」地鎮祭 2028年9月完成予定

乳製品製造体制を整備し生乳需給を安定化

酪農部



工事の安全を祈願し鍬入れ

全農は、酪農家が生産した生乳を無駄にすることなく安定的に販売することを目的に、全酪連などと昨年10月、福島県郡山市に新たな乳製品工場・らくのう乳業(株)を設立し、6月11日に同市で行われた新工場建設の地鎮祭に出席しました。

設立協議体であり施主である「東日本地域における生乳需給調整基幹施設コンソーシアム」の熊谷会長をはじめ、全酪連の隈部会長、本会の齊藤専務、東北生乳販連の伊藤会長、関東生乳販連の高橋副会長が鍬入れなどを行い、工事の安全を祈願しました。

らくのう乳業は、全酪連、全農、東北生乳販連、関東生乳販連の共同出資によって設立され、完成後は全酪連北福岡工場(岩手県三戸市)の製造機能を移管します。

新工場の最大貯乳能力は1050ト、1日当たりの生乳処理能力は最大400トを想定しており、乳製品の製造および販売を行います。効率的な生乳処理と商品供給を実現しながら、時代に即した新たな価値創出と製品展開に取り組めます。

全農は新会社、全酪連などと連携し、生乳需給調整と価格形成機能を發揮するとともに、今後も酪農生産基盤を支えていきます。

「らくのう乳業」  
HPはこちら

青森県本部

## 地元マスメディアへ事業計画と取り組み説明

### リンゴ高密度植わい化、作業請負事業など紹介



今後の事業方針などを説明した懇談会

青森県本部は6月2日、青森市の県農協会館でマスメディア懇談会を開き、2030年へのビジョンに基づく事業計画と特徴的な取り組みを報告しました。現場主義で生産振興を目指す方針を示し、報道各社と活発な意見交換を行いました。

地元新聞社3社、民放3社が参加。県本部は、2030年のあるべき姿として掲げている「現場で経済事業を実践し生産振興を牽引する組織」の実現に向け、部門別の事業

計画について説明しました。併せて、「リンゴの高密度植わい化栽培実践農場の運営状況」「労働力不足への対応に向けた作業請負事業」「パレット輸送への対応状況」など、特徴的な取り組みも報告しました。さらに、昨年度に初めて実施した全農フェスの概要と本年度の開催予定、年間の主な行事についても説明し、積極的な取材を呼びかけました。

報道各社からは、雪害への対応や鳥獣害対策、高密度植わい化栽培の普及状況など多くの質問が寄せられました。同懇談会は、事業理解の促進を目的として、コロナ禍における中断を経て24年度から再開し以降、毎年開催しています。

秋田県本部

## 地元プロサッカークラブと親子田植え体験

### 「元気わくわくキッズプロジェクト」第1弾



参加した子どもたち

秋田県本部とサッカーJ2リーグのブラウブリッツ秋田は5月23日、秋田市で「元気わくわくキッズプロジェクト」を開催し、小学生10人と保護者6人が田植え体験をしました。

プロジェクトは「次世代を担う子どもたちの健全な育成」を目的に開催しており今年で12年目となります。裸足になった子どもたちと、同クラブのマスコットキャラクター「ブラウゴン」が協力し、「あきたこまち」の苗を手植えました。田んぼの感触に歓声があがり、ぬかるむ泥に足をとられながらも目印に合わせ一生懸命苗を植えていきました。また、地元の花農家の指導のもと、ドライフラワーのア

レンジメントも体験しました。

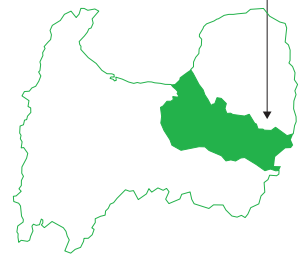
昼食では、「その「ひとくち」が秋田の農業へのエールになる！」をキャッチフレーズに展開している「eat A K I T A プロジェクト」の二環として、キッチンカー「B i s t r o s t o r y c a t」にご協力いただき、秋田県産あきたこまちと秋田県産食材を使用したカレーをおいしくいただきました。

秋には第2弾として、実った稲の収穫体験をする予定です。



ブラウゴンと楽しく田植え

# 富山米「富富富」の産地形成へ さらに強く高品質生産を



JAアルプスは富山県の東部に位置し、滑川市、立山町、上市町、舟橋村をエリアに立山連峰からの雪解け水と肥よくな大地で、米を中心にサトイモや白ネギ、果樹などの高品質な農産物の栽培が盛んな地域です。

主力は米！

「富富富」面積拡大へ

JA管内での主力作物はやはり水稲です。早生品種「てんたかく」、中生「コシヒカリ」「富富」、晩生「てんこもり」など、

県育成品種を中心に栽培しています。中でも富富富は作付面積の拡大に力を入れて取り組んでいます。

富富富は、近年の異常気象に左右されずに生産できる高温耐性品種で、2018年に富山米の新たなブランド品種としてデビューを飾ったうち米です。JAでは「JAアルプス

「富富富」ブランド化推進協議会」を18年に設立し、83の経営体、約87社で栽培を始めました。26年産は県全体で約3379社のうち、JAアルプスでは約565社（172経営体）とトップクラスの作付面積となつています。

高品質米の生産に向け、同協議会では年に数回、生産者を集めた栽培研修会を開催し、昨年の生育概況をもとに今年度の栽培管理ポイントの徹底を呼び掛けています。夏場の高温や水不足など厳しい気象条件下でも、生産者による適期作業の徹底で25年産の二等米比率は97・2%と高くなり、高品質米の生産につながっています。

## 生産拡大に向けた施設整備へ

作付面積の拡大に併せ、円

滑な受け入れ体制を強化するため、24年に新川サブセンターを富富富専用の受け入れ施設として改修し、新型の遠赤外線乾燥機を2台増設しました。25年には、滑川ライスセンターを大幅に改修し、新型の遠赤外線乾燥機14台を導入したほか、粗選機2台と色彩選別機、タンク容量の増設、搬送ラインの改修など、高品質米の生産に向け、生産者ニーズに応じた円滑な施設整備に取り組みしています。

県内屈指の富富富の生産地として、気象条件を問わず高品質米を生産できるよう、生産者とともに全力で挑み、農業者の所得向上のため営農指導の強化に努めています。



高品質米生産へ生育巡回



田植え風景



滑川ライスセンター改修工事の完成内見会

# ●和牛のおいしさ、 おむすびで 手軽に味わって

全農と業務提携先である(株)ファミリーマートは、商品共同開発の一環で、和牛の消費拡大を目的としてニッポンエールふわうまごはん「和牛焼肉おむすび」を6月30日より、関東・東海・関西のファミリーマート(約1万1500店舗)で発売しています。  
【営業開発部・畜産総合対策部・JA全農ミートフーズ】



和牛のおいしさを凝縮したおむすび

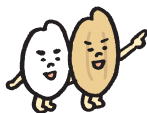
和牛は、日本が世界に誇る食材の一つです。全国の生産者が一頭一頭に真摯<sup>しんし</sup>に向き合い、長年にわたる品種改良の積み重ねによって生み出された和牛は、「とろけるような食感」と「まろやかな味わい」で、多くの人々を魅了し続けています。  
きめ細やかな霜降りや上質な

脂の風味は海外でも高い評価を受けており、近年では世界各国でその価値が広く認知されています。令和7年度の輸出実績においては、米国・台湾・香港を中心に数量・金額ともに過去最高を記録し、日本の農畜産物の中でも重要な輸出品目の一つとして成長を続けています。



おむすびの  
パッケージ

モ〜っと  
手軽に!



和牛をもっと身近に  
感じてもらえたら——  
という思いをメッセージに

## ちょっといい日に 和牛を たべよう!

### コンビニで手軽に和牛を

一方、昨今の物価上昇に伴う生活防衛意識の高まりによる消費の低迷などにより、和牛を取り巻く環境は厳しさを増しています。このような中、より多くの方に和牛の魅力を身近に感じていただくため、全農は業務提携先であるファミリーマートと、和牛の消費拡大に向けた商品共同開発に取り組みました。

今回発売されたニッポンエールふわうまごはん「和牛焼肉おむすび」は、JA全農ミートフーズが集荷した和牛を使用し、日常の中で手軽に楽しめる「おむすび」として商品化しました。

本商品は、同社のおむすびの特徴である「ふわうま製法」のほ

どけるような食感に、甘じょっぱいたれで味付けした後、炙り焼成で風味を引き立てた和牛を合わせた一体感のある一品で、和牛特有の脂身の甘みもしっかりと感じていただけます。和牛本来の旨味を最大限に引き出すため細部にこだわり、試作を重ねました。

### 消費者と 畜産農家を応援

商品パッケージには、全農が和牛消費喚起の合言葉としている「ちょっといい日に和牛をたべよう!」のメッセージを入れました。特別な日だけではなく、頑張った日の帰り道や、ふとした褒美の瞬間に、幅広い年代の方をターゲットに、もっと気軽に和牛を楽しんでいただきたいという思いが込められています。また、「ニッポンエール」のロゴをあしらった、消費者と共に全国の生産者

を応援したいという思いも込められています。

7月3日には、「ニッポンエールブランドアンバサダー」のAKB48のメンバー下尾みうさん、徳永鈴海さん、長友彩海さんにも同商品を食べていただき、TikTok公式アカウント「【じぇー太】JAタウンニッポンエールみのりみる」で、和牛ク

イズに挑戦しながら和牛と商品の魅力を紹介しました。全農は今後もファミリーマートとの連携を一層強化し、国産農畜産物の消費拡大と生産振興に取り組んでまいります。

TikTok【じぇー太】  
JAタウンニッポンエール  
みのりみる」はこちら



長友彩海さん

徳永鈴海さん

下尾みうさん

AKB48メンバーと  
和牛の  
おいしさをPR

エムサービス×  
ニッポンエール  
連携企画



## 「ゴーヤーレスキュー」 食べてフードロス減

全農とエムサービス(株)は、ニッポンエールの宮崎県産の不揃いゴーヤーを使用した取り組み「ゴーヤーレスキュー」企画を、エムサービス(株)が受託する企業食堂で7月1日から展開します。【営業開発部】

JAみやざきが供給するゴーヤーを使用し、エムサービスが受託する企業食堂向けにメニューとして展開するもので、本年度で4年目。本年度から「ニッポンエール」を使用した販促物を活用し、生産者と消費者をつなぎ日本の産地をみんなで応援する取り組みを、さらにお客さまにお伝えします。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。

「夏のごちそう  
キャンペーン」  
8月15日まで開催中



## 近江米食べて 近江牛など豪華賞品

JAグループ滋賀は、「近江米 夏のごちそうキャンペーン」を実施しています。対象商品の近江米をご購入いただき、商品に記載のQRコードから応募いただけます。近江牛など豪華賞品が当たるチャンス。滋賀自慢の近江米をこの機会にぜひご賞味ください。【滋賀県本部】

### プレゼント

A賞：近江牛焼肉用700g(50名)

B賞：近江牛カレー 3食入り(100名)

近江牛は、日本三大和牛の一つで、豊かな自然のもと育まれたきめ細かな霜降りとやわらかさが特徴です。

### 応募概要

締切	令和8年8月15日
方法	対象商品の近江米に記載のQRコードから応募
問い合わせ	滋賀県本部米穀課 電話：077(521)1678



7,200円  
(税込み)

## フルーツ王国 やまなし

すもも(貴陽)  
約1.7kg  
7月下旬から8月上旬に発送予定



JA全農の産地直送  
通販サイト

JAタウン  
ショップ紹介

「貴陽」は、山梨県で誕生した大玉すももで、その圧倒的な大きさと甘さから“すももの王様”と呼ばれています。栽培が非常に難しく、生産者も限られているため、「幻のすもも」としても知られています。一般的なすももの2~3倍にもなる大きさはひときわ存在感があり、完熟した果肉は桃にも負けないほどジューシー。糖度は15~18度に達することもあり、濃厚な甘みが口いっぱいに広がります。さらに、皮の近くに感じるほどよい酸味が甘さを引き立て、最後まで飽きのこない味わいを楽しめます。ひとくちで、その格別なおいしさを実感できる特別なすももです。

(JAタウンはこちら) <https://www.ja-town.com>  
(お問い合わせは) [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)

ご注文は  
こちらから

